



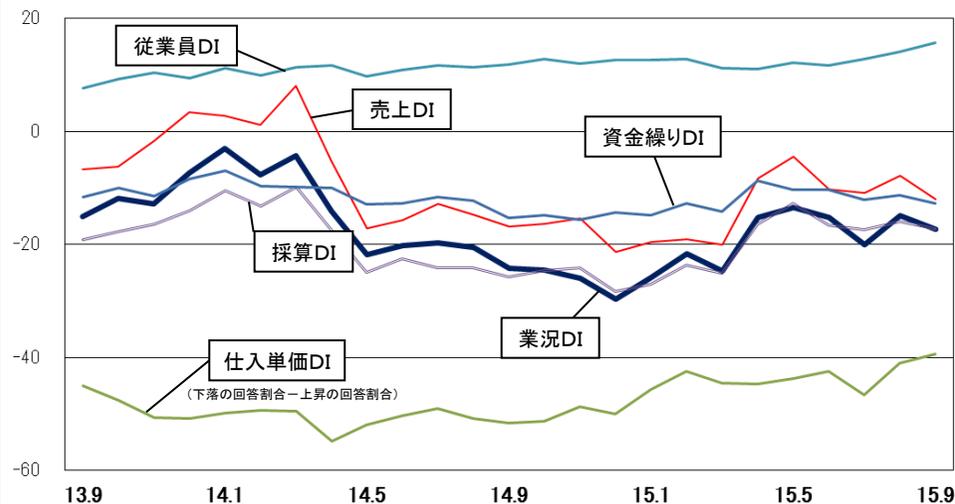
業況DIは、一進一退。先行きも慎重な見方続き、横ばい圏内の動き

ポイント

▶ 9月の全産業合計の業況DIは、▲17.3と、前月から▲2.4ポイントの悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったことに留意が必要。好調な観光関連の牽引が続く中、住宅投資に加え、公共工事にも持ち直しの動きがみられる。他方、価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上昇が足かせとなる状況に変わりはなく、台風や大雨など天候不順の影響もあって、中小企業の景況感は地域・業種などによってばらつき、一進一退の動きが続く。

▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲16.5(今月比+0.8ポイント)と横ばい圏内の動き。観光需要の拡大や住宅・設備投資の回復、公共工事の持ち直しなどへの期待が伺える一方、家計負担の増大が消費者マインドを下押しする中、消費低迷の長期化を懸念する声も聞かれる。加えて、コスト増加分の価格転嫁や人手不足などへの対応が遅れる企業では、先行きに対して慎重な見方が続く。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年9月以降)



2015年度の所定内賃金の動向

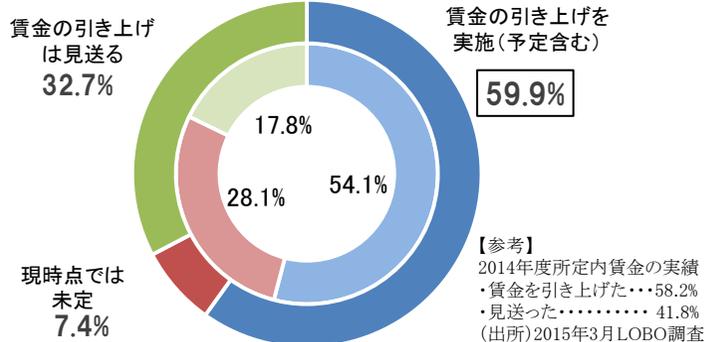
- ▶ 2015年度に「賃金の引き上げを実施した企業(予定含む)」(全産業)は、59.9%と6月調査より5.8%増加した。
- ▶ 一方、「引き上げを見送る(予定含む)」企業は、32.7%と6月調査より14.9%増加した。特に、小売業では「現時点では未定」から「引き上げは見送る」に転じた企業の割合が多く(「引き上げは見送る企業の割合」6月調査24.8%⇒9月調査44.9%)、先行きへの慎重な姿勢が伺える。

[中小企業の声]

- ▶ 従業員の定着のため一時金を増額して支給。また、人材確保のためにベアを実施し、採用募集をしているが応募がない (十和田 自動車販売業)
- ▶ 最低賃金の引き上げに伴う人件費の増大が見込まれるため、大規模な設備投資を計画していたが、見直さなければならない (熊谷 ホテル業)
- ▶ 売上が過去最高となる見込みであり、業況・採算とも改善していることから、従業員に期末賞与を支給する予定 (静岡 食料品卸売業)
- ▶ 消費が伸びない中、仕入れ価格の上昇が続き、先行きの懸念が増しているため、賃金は上げられない (刈谷 食料品小売業)
- ▶ 建築資材の仕入れ価格が高止まり、収益を圧迫しているが、社員のモチベーションを上げるために定期昇給を行う (勝山 建築土木業)
- ▶ 定期昇給を実施できなかった分、秋に一時金の支給を検討中 (京都 広告代理業)
- ▶ 原材料費の上昇に加え、個人消費の低迷のため、業績がふるわない。利益確保が見込めず、賃上げは厳しい (坂出 菓子製造業)
- ▶ 売上が伸び、業況も改善しているため、若手社員を対象にベアを実施する予定 (熊本 総合百貨店)

◆2015年度の所定内賃金の動向(全産業)

※円グラフの外側が9月調査、内側は6月調査



<業種別の賃金引き上げ状況>
(引き上げ) (見送り)

建設業	68.5%	28.4%
製造業	67.4%	27.3%
卸売業	66.1%	27.4%
小売業	46.5%	44.9%
サービス業	55.0%	32.7%

<賃金引き上げの内容>

定期昇給	: 77.1%
ベースアップ	: 30.8%
手当の新設・増額	: 12.5%

※賃金の引き上げを実施(予定含む)した企業が対象。複数回答

【参考】
2014年度所定内賃金の実績
・賃金を引き上げた...58.2%
・見送った...41.8%
(出所)2015年3月LOBO調査